

# とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.120

2018  
Winter

巻頭特集

## 「教えたくない」逸品てんこ盛り

知る人ぞ知る鳥取県の農水産物

特集

## 開け、新たな海女文化

鳥取市福部町で女性2人奮闘中



群れで行動、  
鈴の音のような鳴き声

全長約18cm。「冠羽」と呼ばれる頭頂部の長い羽毛が特徴的で、くちばしから冠羽にかけて黒い帯模様。腹は黄色みを帯びており、尾は灰黒色で先端が赤色。雄雌同色という。基本的に数羽から数十羽の群れで行動し、時に大群が市街地に現れることも。鳴き声は「チリチリチリ」と小さな鈴の音のよう。

写真提供：NPO法人日本野鳥の会鳥取支部会員 徳永年彦

# とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.120  
2018 Winter

あーとの森	絞り染め 西尾 正道	2
巻頭特集	「教えたくない」逸品てんこ盛り 知る人ぞ知る鳥取県の農水産物	4
生きものセンサー365 K原さんちの里山Diary	ヌートリアの受難	14
ここにこの人 Human Life	宇田川 美嘉 医療リハビリセラピスト・看護師	15
カメラアイ Camera Eye	圧巻の大山北壁	18
きらり匠人 継承の技が語る世界	左官技能士 山根 勝男	20
特集	開け、新たな海女文化 鳥取市福部町で女性2人奮闘中	22
花咲くYokai談 水木しげると身近な妖怪たち	河童	26
鳥取のうま味	温泉地で紡ぐ縁の創作料理	27
Viva! とっとりLIFE 輝くIU Turner者たち	建築リノベーション(鳥取市気高町)	28
企業紹介	株式会社 Shpree <small>シュプリ</small>	30
文字の迷宮をゆく ~つれづれ書林女子~ 『新編 山のミステリー 異界としての山』 Voice		31
ふるさと鳥取 ファンクラブ	PR	32
読者プレゼント・編集後記		33

●表紙イラスト● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)

絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。家族で半年間の世界旅行中。まずはフランスのブルーム・ヴィレッジで、2週間の瞑想生活。人生の問いや怒りに向き合い、自らに微笑みかける不思議な体験をした。



「西尾絞り」の展覧会。暖簾からストール、ハンカチ、コースターなど多種多様な作品がズラリ(2018年9月、鳥取市)



にしお・まさみち  
1951年、鳥取市佐治町生まれ。71年から2年間に、東京デザイナー学院テキスタイル科で学び、次いで染織家・小島憲次郎に師事。独自の「西尾絞り」を創出する。75年から国展に出品し、82年に同展新人賞を受賞。故郷に私設植物園「けはひ(Kewai)の庭」を作る。



曲線自在の染め空間  
絞り染め 西尾 正道

西尾正道さんの絞り染め(※)は、大らかな曲線でリズムカル、素朴でモダンな自由もある。しかも暖簾は、左右入れ替えが可能で模様の変化も楽しめる。「最初から他人の方法には興味がなく、オリジナルを目指した」という、飄々とした風貌とは裏腹に強い信念の持ち主である。

東京で染色を学ぶうちに、糸と針に自分の気持ちを入れ込む喜びを見だし、布を上下に重ねて縫い締めた独自の『西尾絞り』を考案。国展(国画会主催)に出品すると、大胆に連動する躍動感が話題となり、「絞り染めでこんな表現ができるのか」と大きな反響を呼んだ。

絞りの模様は、染めと染まらない部分で生まれるが、「染め際が命で、滲みや白の表現も大切にしたい」と語る。淡い緑青や赤茶の彩りは爽快で、優しく、時にはユーモアもあり、「染めた布が生活に溶け込み、人々も生き生きすればうれしい」と願う。

山里の工房で、あえて化学染料を使う。「原料に草木を使えば、山野を犠牲にするので、自然はなるべくそのまま生かしておきたい」という徹底ぶり。考えてみれば直線は人工のもので、自然界はすべて曲線で成立している。自然に寄り添い生まれる、曲線の染め空間こそ尊い。

※絞り染め=布の一部を縛り、染料が入り込まないことで模様を作る、伝統的な技法の一つ。『西尾絞り』は伝統を生かしながら、約40枚の布を重ね縫い、ほぼ濃淡及び2~3色で染め上げる。

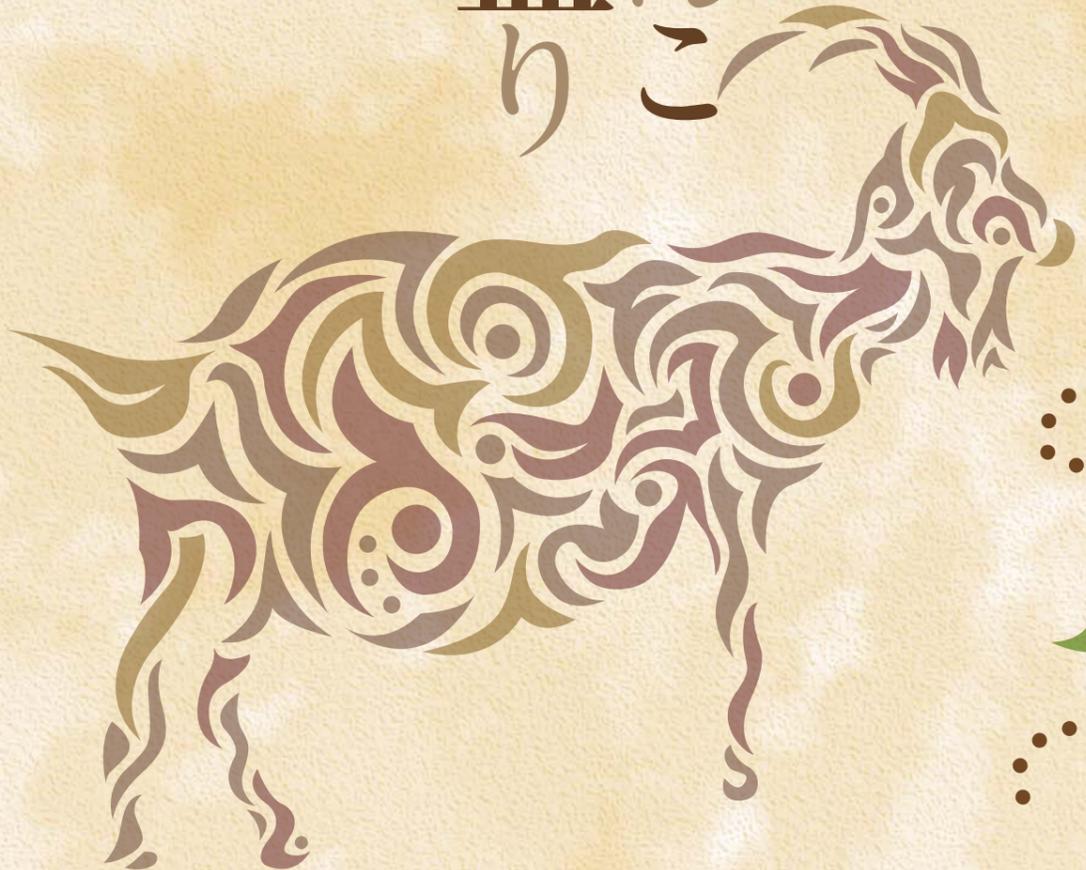
- 鳥取県には全国に誇る特産品が数多くある。
- 特に「二十世紀梨」や「松葉がに」は、もはや誰もが知っている。
- しかし今回、意外性・希少価値・新開発などの特徴を持つ「教えたくないけど教えたくない、隠れた逸品を見つけ出した。」
- そのあふれる魅力と、生産者たちの奮闘を紹介する。
- 知ったらもうじっとしてられないかも!?

文/鳥飼 明子 写真/萱野 雄一・田中 良子  
扉イラスト/近藤 礼章

知る人ぞ知る  
鳥取県の  
農水産物

# 逸品 盛りこ てんこ

「教えたくない」





日本海に面したメイちゃん農場。  
開放感たっぷり、ストレスフリーな環境だ

## 目指すゴールは地域の潤い

緑の農場に設置された木柵に近く、「メエ、メエ」と鳴きながら、小走りで嬉しそうに近づいてくる。この春生まれた子ヤギたちだ。農場に面する防波堤の向こうは日本海。「ヤギ山」のイメージだが、「こメイちゃん農場」(米子市淀江町)のヤギたちは海沿い育ち。心地よい潮風を受け、太陽の光を十分に浴び、ミネラルたっぷりのあぜ草を食べ、のびのびと育つ。

この農場で作られる「シェーブルチーズ」(※)に、今注目が集まっている。手搾りのヤギ乳、フランス産の酵母菌、日本海藻塩を使用し、10日以上熟成させるもので、口に入れると濃厚なうま味が広がる。クリーミーな食感と程よい塩味、そして最後にヤギ乳独特の香りが。「やみつきになる」と、農場まで足を運ぶ人もいるという。「蜂蜜や黒胡椒を付けても美味しい。ワインにもよく合います」と話すのは代表の天下哲治さん。ヤギ乳のプリン、チーズケーキなどスイーツも好評で、インターネットやデパートの催し物で販売中だ。

大下さんがヤギを飼い始めたのは8年前。きっかけは、塾講師をしていた当時、アレルギーを持つ子どもの多さに驚いたこと。「家畜の糞に



朝夕2回の搾乳は全て1頭ずつ手作業で行う。  
絞りたての乳は、クセがなくまろやかで飲みやすい

📍メイちゃん農場  
📍米子市淀江町今津418-1  
☎0859-56-3454  
🌐https://meichanfarm.shop

「全部が苦労」と吐露するが、それでも踏ん張るのは、目指したい未来があるから。「チーズはあくまでスタート。これを手がかりに、ここを訪れる人、暮らす人を増やし、活力ある地域にして次世代へ渡したい」。そんな大下さんに賛同、応援する人たちは徐々に増えており、農場の今後がますます楽しみだ。

※シェーブルチーズ=ヤギの乳で作ったチーズの総称。基本的にソフトタイプを指す。

## 努力の末、誕生したチーズ

「教えたくない」/  
逸品てんこ盛り



「ヤギのチーズはゴールではなく手段です」と強調する大下さん



搾乳したヤギ乳に酵母菌を吹きかけ熟成させて作るシェーブルチーズ。  
「潮騒」10日以上熟成と  
「風」20日以上熟成の2種類あり

- シェーブルチーズ「潮騒」/4104円(税込)
- シェーブルチーズ「風」/5184円(税込)
- シェーブルチーズケーキ (6個セット)/2500円(税込) など



人が近寄ると嬉しそうに顔を出す愛らしいヤギたち

耕作放棄地などを少しずつ自力で開墾して畑にした斎藤さん（写真右）と息子の康史さん。現在では家族3人で9カ所を営む



☎ THA(鳥取日野アグリカルチャーアメニティ) 斎藤  
 所在地 日野郡日野町野田276-1  
 ☎ 0859-72-1238  
 ☎ 0859-72-0318

「教えたくない」  
逸品てんこ盛り

エゴマ

## 上質な油を日野から全国へ



見た目はシソの葉とそっくりなエゴマの葉と、油を絞った後の種子を焙煎加工したミール

### 試行錯誤で拡大し、躍進中

キラキラと黄金色に輝くエゴマ油。有機農業で育てられた上質なエゴマから搾油されたもので、その味は癖がなくクリア。一口で上質なものと分かる。このエゴマ油を製造・販売しているのは、鳥取日野アグリカルチャーアメニティ（THA）。代表の斎藤茂雄さんは日野町で建材店を営んでいるが、人口減少や

大工職人の高齢化で建築の仕事が減少するなか、それを補う事業として、2005年からエゴマ栽培を始めた。

今年で14年目。「竹やぶを1人で少しずつ開墾して、30坪（約99平方メートル）ぐらいから始めた」と当時を振り返る。しかも町内にエゴマ栽培の前例はなく、手探りのスタート。そ

れでも研究熱心な斎藤さんは町の図書館に通い、栽培方法や堆肥の作り方を調べながらコツコツと実践、徐々に収穫量を伸ばしてきた。今では9カ所約9000平方メートルで栽培、町の特産品として真っ先に挙げられるほどに成長している。

また近年は、日野高校の3年生が行う「課題研究」の授業で、特色ある地域食材の一つとして取り上げら



斎藤さんのエゴマ提供によって日野高生徒が考案した味噌とドーナツ

れ、生徒が創意工夫を凝らした新商品開発を行っている。これまでに「えごまドーナツ」「えごま味噌」「えごまクッキー」などが考案され、成果品は不定期開催している「日野高シヨップ」や地元イベントで販売されることも。担当教諭の見世ちづるさんは、「エゴマ油や葉、加工品を提供してもらうことで、生徒たちが研究できる機会をいただいています」と斎藤さんへの感謝を口にした。試食会やイベント販売の際には斎藤さんも足を運び、高校生の活動を温かく見守っている。

3年ほど前に息子の康史さんが帰郷、生産に加わったことで新たな販路開拓も動き始めている。エゴマ油は、必須脂肪酸であるα-リノレン酸を多く含んでおり、血液をサラサラにする、がんやアレルギー疾患を抑制するなどの効果があるとされ、人気が高い健康食品。康史さんは「田舎は品質のいい農産物が当たり前にあるから、あまり重宝されないけど、ヘルシー志向の人が多い都会には確実に需要がある」と、都市部にターゲットを絞っている。

地元の協力や若い力を得て、斎藤さんのエゴマはこれからも躍進しそうだ。



- 「有機えごまの油」105g / 2700円(税込)  
65g / 1800円(税込)
- 「有機エゴマの恵み ミール」/ 600円(税込)
- 「有機エゴマの恵み パウダー」/ 600円(税込)

生のままの摂取がオススメの油と、料理に使いやすいミールとパウダー

児童考案のコース料理提供  
岩美西小学校がお嬢サバカフェ

お嬢サバの初出荷式が行われた今年3月5日、岩美町内のイタリアンレストラン「アルマーレ」で、岩美西小学校の児童による「キッズカフェ」（公益社団法人 鳥取法人会主催）が1日限定で開かれ、児童考案のお嬢サバ料理が招待客らに振る舞われた。

鳥取県知事（写真右）ほか、来賓に料理の説明をする児童たち  
写真提供…岩美西小学校



挑戦したのは当時5年生の16人。夏からお嬢サバの学習に取り組み、接客サービスの練習を重ねるなどして準備。当日のメニューは、お嬢サバの紙包み焼きやカルパッチョ、サバ骨で出汁をとったミネストローネなど豪華なコース料理だ。全てに児童のアイデアが反映されており、この日、客として招待された鳥取県知事、岩美町長や学校長、児童の保護者たちに、メニューの詳細を誇らしげに説明していたという。

担任教諭（当時）の小林祐介さんは、「カフェ運営の体験で、通常の授業では学べないことを学んだはず」と子どもたちの成長を喜んだ。と同時に彼らの胸には、お嬢サバを通して地域への愛着と誇りが芽生えたことだろう。



手厚く育てた「箱入り娘」

養殖条件を徹底  
生食のまま提供

サバを養殖する50tの専用水槽。餌をまくと勢よく飛び跳ねる

「教えたくない」  
逸品てんこ盛り



生食のまま提供できることが最大の「ウリ」。出荷先の各店舗で好評だ  
写真提供:JR西日本

今年3月、岩美町で陸上養殖されたサバが初出荷の日を迎えた。その名も「鳥取生まれの箱入り娘お嬢サバ」。最大の特長は生食できること。陸上に設置した50トンの専用水槽、地下10メートルから汲み上げたきれいな海水の中で悪い虫が付かないよう手厚く育てられているという養殖プロセスから、このユニークな名前が付けられた。

各地の店舗でお造りや握り寿司といったお嬢サバ料理が提供され、「脂がのっついて非常に美味しい」と好評を博した。お嬢サバが養殖されているのは、鳥取県・岩美町・西日本旅客鉄道株式会社（以下、JR西日本）の3者連携による「JR西日本鳥取県岩美町陸上養殖センター」。2年間の試験養殖を経て昨年6月にセンターが開設され、「地域との共生」をテーマに新たな事業展開を模索していた

JR西日本が養殖事業者となり、お嬢サバの養殖・卸売が始められた。サバは、アニサキスという寄生虫による食中毒の恐れがあることから通常、生食は避けられるが、お嬢サバはなぜ可能なのか。センター長の吉村忠男さんが、その秘密を教えてください。

まずは、「親サバも完全養殖」。加えて、「自然ろ過されて地下にたまった海水の使用」。そして、タンパク質やビタミンを豊富に含む「こだわりの餌」だという。「この3点がポイントです。外海との接触が一切ない状態で育てているので、寄生虫がつきにくい」と吉村さん。

養殖期間は約10カ月。飼育密度を2〜3%に保ち、水質・温度管理も徹底している。稚魚たちは、ストレスフリーな環境下で水槽内を元気に泳ぎ回り、春には25センチ・250グラム程度に成長。毎年3月8日（サバの日）に出荷が開始される。食べられるのは6月頃までと期間限定だが、その希少さがブランド力をアップさせているようだ。

「人間と違ってサバは、痛いとか寒いとか状況を訴えられない。発するSOSを素早く感じ取ってやることがカギ」と吉村さん。毎日観察して、泳ぎ方や餌の食べ方など微妙な変化から体調の良し悪しを探っているという。

来年の出荷目標は3万尾。自慢の箱入り娘たちを鳥取県の新たな逸品とすべく、2年目の挑戦が続いている。

徹底管理で箱入り娘のごとく、大事に育てられるお嬢サバ

☎ JR西日本鳥取県岩美町陸上養殖センター  
☎ 岩美郡岩美町大谷2182-484  
☎ 0857-72-1012  
🌐 <https://www.westjr.co.jp/life/food/ojou-saba.html>



「季節によつての温度管理にいちばん気をつかいます」と吉村さん

親子3代で栽培をする杉川さん一家(中央が藍月さん)。  
出荷のピークを迎える冬は、クリスマスも年末もなく総出で大忙し



JA鳥取中央 北栄営農センター果実園芸課  
東伯郡北栄町妻波1725-2  
0858-49-1147



ズラリと並ぶストック栽培のビニールハウス

# 西日本最大規模、美しさに定評

「教えたくない」/  
逸品てんこ盛り  
ストック



白、黄色、紫、ピンクなど  
多様な色があるストック。  
写真の品種は「チェリーカルテット」



かなり慣れないと難しい一重と八重の鑑別  
作業。素人目には葉の見分けがつかない

## 町代表する特産品に成長

大栄西瓜、砂丘ながいも、砂丘ブドウなど、北栄町は美味しい農作物の名産地として知られている。しかし、「ストック」という花の一大生産地でもあることをご存じだろうか。しかもその規模は西日本最大、美しい仕上がりで、市場から高い評価を受けている。

華やかでいて優しい雰囲気を持つストックは、贈答の花束、祭礼用のアレンジメントに欠かせない花。その生産が北栄町で始まったのは今から30年ほど前のことだ。当時鳥取県では、花の産地づくりに取り組んでおり、収穫時期が10〜3月というス

トックはスイカの後作に適しているという理由から、生産が進んでいったという。

JA鳥取中央北栄営農センター果実園芸課の前田智貴さんによると、「4戸21戸から始まった栽培は、現在28戸8.6畝にまで広がった。昨年は、売り上げ1億7千万円と、過去最高となりました」という。現在ストックは、町を代表する特産品に成長したのだ。

栽培は、スイカ栽培が終了する直後の7月下旬から始まる。翌3月まで段階的に出荷するため、少しずつ時期をずらして種をまく。親子3代で農業を営む杉川藍月さんに栽培の苦労を尋ねると、「一番難しいのは鑑別の作業ですね」と返ってきた。

ストックには一重咲と八重咲があるが、商品として出荷するのは八重咲のみ。しかし種には2種類が混合しており、発芽後でないとそれが判別できないという。双葉が成長した頃、葉色や形のほんのわずかな違い

から八重咲を見分け、その一本だけを残してほかの芽を抜き去る。収穫量を左右するだけに気の抜けない作業だ。

このほか、枝分かれを促進するための摘心(ピンチ)による生長の調整など、さまざまな作業をこなす。忙しいときは家族総出だ。「最盛期の年末は朝から晩まで黙々と花を切り続け、ひたすら箱詰め。気が遠くなりそうです」と杉川さん。それでも品質に妥協はない。「花には贈る相手に心を伝える役割がある。だから、少しでも人の心に残るものを作りたい」。

可憐さの向こうに凍とした輝きが見えるのは、生産者のそんな思いがあふれているからなのかもしれない。



茎の先をカットして脇芽の成長を促す摘心(ピンチ)の作業。これによってボリューム感が増した花になる

ここにこの

Human Life



医療リンパドレナージセラピスト・看護師

宇田川 Udagawa Mika 美嘉

文/松村 亜紀子 写真/山田 真実

がん治療の後遺症で手足がむくむリンパ浮腫（※1）の症状を、  
マッサージなどで改善する医療リンパドレナージセラピスト（※2）。  
迷い、悩む患者のつらさを少しでも和らげたい一心で、  
広い分野で学びを深めた。  
今日も温かな手のひらで患者の体と心を癒やすのが、  
看護師でもある宇田川美嘉さんだ。

※1 リンパ浮腫＝がんの治療でリンパ節を取り除いたり、放射線治療を行うことでリンパ液の流れが悪くなり、腕や脚がむくむこと。重症化すると、関節が曲がりにくいなど日常生活に支障がでる。

※2 医療リンパドレナージセラピスト＝リンパ浮腫の治療を行う施術者の資格で、日本医療リンパドレナージ協会が認定。専門的な医療技術で、美容目的のリンパマッサージとは異なる。

里山の生きものにアンテナを張り巡らせ、  
日々奔走する桐原夫妻の日常をエッセーと写真で紹介。

文/桐原 真希 写真/桐原 佳介・桐原 真希

生きもの  
センサー  
365

—K原さんちの里山Diary—



岸辺に上陸する際の正面顔は一見、ビーバーに似ている

## ヌートリアの受難

なん おちよう  
南部町の水辺で最もよく見かける哺乳類、それが巨大ネズミのヌートリアだ。特定外来生物であり、ヒアリやウシガエルと同じく、飼育・販売・生きたままの移動などが禁止されている。

彼らは好きで来日したわけではない。不本意な肩書きが付いたのは、人間の無責任な所業に拠る。戦時中、毛皮用にフランスから輸入されたという。以前、博物館でその毛皮に触れてみたら、隣にあったタヌキを断然凌ぐなめらかな触わり心地。軍服の襟元や靴のインソールに使われた所以も納得した。

元々の生息地は中南米の温帯から熱帯域だが、我が家近隣のヌートリアは冬季でも溜め池で泳ぐ。上等な密毛が山陰の寒さから身を守っているのだろう。

しかし近年は、農業被害などが著しいため、申請の上で駆除すれば自治体から奨励金が受け取れる地域もあるという。

漫画『山賊ダイアリー リアル猟師奮闘記⑤』（※）ではヌートリアを食すシーンがあった。結構、美味しいらしい。機会があれば、「命を粗末にせず有効利用」という姿勢で味わってみたい。さらに毛皮も骨も教材に出来ないか、と密かに目論んでいる。

※岡本健太郎著、講談社発行のエッセー漫画



小さなソーセージのような形の糞



特徴的なオレンジ色の前歯が愛らしい。  
基本的にベジタリアン



泳ぎは得意。半身水中に沈んだ状態でスイスイ泳ぐ。  
長い尾を持ち、全長は70～90cm



## Profile

- ▼ぎりらはまき＝東京農業大学農学部卒業。1996年から自然観察指導員として活動。里山関係の体験事業を行う「もりまきフィールドネットワーク」代表。2児の母。
- ▼ぎりらはけいすけ＝東京農業大学農学部卒業。1999年に転職で神奈川県から米子市に転入、2003年に南部町へ移住。現在、米子水鳥公園主任指導員。
- 野鳥をテーマとした環境教育活動や調査研究、湿地保全活動などに従事する。

## 苦しむ患者を目前に 「何か」を探し求める

看護師として岡山県内の大学病院で勤務していた宇田川さん。経験を積んで実力も責任も増した頃だ。手術や抗がん剤では取り切れないつらい症状に苦しむがん患者を目前に、行き詰まることが多くなった。「もっと患者の力になりたい」と、通常の看護や治療に加えて「特別な何か」を探し求めるように。

そこで思いついたのは、精油や植物の香りなどで心身の不調に働きかけるアロマセラピー。以前から興味を持っていた。「人間を全体的にとらえる自然療法の力が助けになるかも」。本気で学ぼうと決心し、激務の合間を縫いながら講座を受けるため、毎週1回大阪へ通い、1年かけて本場英国のアロマセラピストの資格を取得した。

セラピスト」。リンパ浮腫で苦しむ患者を救うための資格で、「これだ！」と再び講座に通い、見事に資格を手にした。

その後、知人を介して、リンパ浮腫の治療に取り組んでいる鳥取市の「野の花診療所」とつながりができた。「ここでなら学んだことを生かせる」と7年前、市内に移住。以来、同診療所でリンパ浮腫外来を担当している。

## 施術はまさに「手当て」 日常のアドバイスも

医療リンパドレナージに必要なのは両手のひらだけ。オイルなどの助けを借りることもない、シンプルだからこそ、究極の技と言える。皮膚の近くを通っているリンパ液を動かすため、患者の肌の手ひらを添え、やさしい力で、ゆっくりと一定方向に動かす。まさに「手当て」。手のひらの温かさや柔らかさが心地よい。症状に合わせて、定期的に浮腫の状態を確認しながら施術するほか、患者本人ができるマッサージを教えた

り、専用ストックキングなどを紹介したりと、良い状態で過ごせるようにサポートする。

リンパ浮腫は、自己管理をしながらかくつきあう必要があるが、年齢を重ねると通院が難しくなる患者も。そんな人にも施術ができるように、宇田川さんは訪問看護ステーション「ナースくる」（鳥取市）にも所属。他の病院の患者も含め、マッサージ用の折りたたみ式ベッドを積んだ車で訪ねていく。

### うだがわ・みか

ほくえいちょう  
北栄町出身。岡山県内の大学病院で看護師として働きながら、英国IFA認定アロマセラピスト、医療リンパドレナージセラピストの資格を取得。7年前に鳥取市の野の花診療所へ。リンパ浮腫外来を担当するほか、訪問看護ステーション「ナースくる」でも活躍中。自宅の一室でサロン「mellow aromatherapy room」を開く。

## 迷う人を導く「灯台」に

## 探し求め、たどり着いた道

リンパ浮腫専門の外来は、全国でもまだ少ないため、どこを受診したらよいか迷ったり、あきらめて放置したりと、「リンパ浮腫難民」という言葉もあるほど。「ここにありませんよと、道しるべになる『灯台』のようになりたい」と宇田川さん。そのために技術を磨き、経験や工夫を重ねている。

## アロマサロンを開業 資格のための講座も

5年前には、念願だったアロマセラピーのサロンを自宅で開業。「香りには体調をコントロールする力がある。それをうまく使うコツを伝えたいんです」。客とじっくり話し、心と体にぴったり合った香りの精油を選んでブレンドする。アロマセラピーに興味があった

も持病があると、悪影響が出ないかなどの不安が募り、あきらめてしまう人もいる。そんな時でも宇田川さんは、看護師としての知識と経験を生かし、可能な手法を探断することも。だから安心して相談できるのだ。

サロンではリラクセスできるアロマトリートメントのほか、アロマとハーブ（セラピー）の一日講座や、資格を取るためのスクールも。今後はこのスクール部門を強化する予定。山陰ではこれらを学べる場が少ないため、「学びたい人を助け、開業出来る人を増やしたい」という。

「つらい人を前に、少しでもその助けになりたい」。その一貫した強い思いで求め続けた「何か」は少しずつ、でも着実に実を結んでいる。



両手のひらをゆっくりゆっくり一方方向に動かし、浮腫をほぐしていく施術



写真提供：宇田川美嘉



大山の元谷は、北壁から崩落してきた土砂がたまり、広大な川原状となった場所。この日は大雪のため、通常の道がわかりにくいなか、なんとかたどり着くと、そこには普段見る景色とは、まるで違う世界が広がっていた。いつにも増しての迫力と美しさの北壁に圧倒された。

だい せん  
圧巻の大山北壁 (大山町)  
撮影/山本 慶治 (鳥取市)

大山の元谷は、北壁から崩落してきた土砂がたまり、広大な川原状となった場所。この日は大雪のため、通常の道がわかりにくいなか、なんとかたどり着くと、そこには普段見る景色とは、まるで違う世界が広がっていた。いつにも増しての迫力と美しさの北壁に圧倒された。

MEMO

1997、98年と「全国左官技能競技大会」に中国地方代表として連続出場し、いずれも5位入賞。2007年度「鳥取県優れた技能者」で表彰。03年から、鳥取県左官高等職業訓練協会にて指導員として後進を育成。15年には「厚生労働省ものづくりマイスター」に、鳥取県で初めて認定されている。



部分ごとに細やかに丁寧に仕上げている山根さん



その数、数千種類におよぶ鏝こてという金属の道具を自在に使い、建物の内壁・外壁や床、土塀などを塗り上げる左官の技術。この道50年の山根勝男さん(65)は、土蔵の壁に漆喰で彫刻や装飾を施す「鏝絵こてえ」を後世に伝える、県下有数の左官職人の1人だ。

### 左官技能士 山根 勝男

中学卒業と共に出身地・若桜町の左官職人の親方に弟子入りした。志した理由は、「自分の家を直したい」という思いからだ。仕事が面白くなり始めたのは、20代半ば。日本を代表する左官職人の久住章さん(兵庫県淡路島)の講演会が鳥取市内で開かれ、洋風の彫刻を施した施工例の写真を見たのがきっかけだ。

「作品の斬新さに衝撃を受けました。この人から多くを学びたい!と車に布団を積んで、淡路島に押しかけたんです」。その後10年間、地元で軸足を置きつつ、久住さん主宰の左官職人集団に所属し、ヨーロッパ視察や全国各地のホテルなどの工事現場で腕を磨いた。その後、旧鳥取県立図書館(※)の復元工事も手がけている。

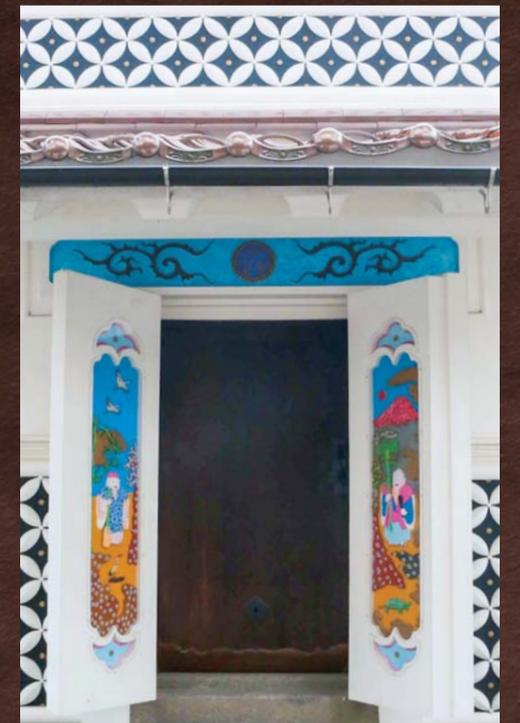
鳥取県内で今も息づく土蔵の修復・新築工事をはじめ、和・洋を問わず現代のさまざまな建築物で、左官技術の可能性を追求する山根さん。

「自然素材の漆喰は水や火に強く、天然の調湿作用があって人や地球環境にやさしい建材。その良さを自分の技術と表現で、改めて多くの人に伝えたい」と、意欲を燃やしている。

文/島香子 写真/田中良子

※旧鳥取県立図書館＝1930年に建てられたアールデコ建築の図書館。縦長の開口部やレリーフなど洋風建築の粋を凝らした建物で1993年から外壁・内壁などの復元工事を進め、95年「わらべ館」としてリニューアルオープン。

鏝一本でゼロから作り上げる喜び



1859年造の蔵を2007年に剣先玉七宝なまこ仕上げで修復。入口の扉絵(たらい)には、古来、夫婦愛や長寿の象徴とされる能楽の「高砂」の一場面を、アクリル絵の具で描いた(八頭町N邸)



施主の孫が描いた「寿」の文字を鏝絵に起こし、家紋、鶴と組み合わせた妻飾り。「後世まで蔵に愛着を持ってもらうように」と山根さんが発案した(鳥取市K邸)



鏝の種類は多種多様。それぞれの用途で細かく使い分ける

山根勝男  
八頭郡八頭町久能寺898-1  
0858-73-0726

開け、新たな

# 海女文化

鳥取市福部町で女性2人奮闘中



鳥取砂丘の東端にある小さな港、岩戸漁港。

「今日はベタ風だな」。

ウエットスーツを着た2人の女性が、  
小型船に乗って颯爽と海へ出ていく。

一時は途絶えた鳥取県内の「海女漁」が、  
海を愛する女性たちによって復活した。

伝統をそのまま引き継ぐことはできなかったが、  
「無理なく、楽しく」をモットーに

自分たちのスタイルで、真摯に向き合う。

新しい時代の鳥取の「海女文化」が花開く。

文／井田 裕子 写真／山田 真実

夏の岩ガキシーズンの様子。  
海藻をかきわけて岩ガキを探す  
写真提供：田淵厚志



漁に出かける際の七つ道具

## シンクロの経験生かし転身 漁の危機知り、単身飛び込む

鳥取県内の海女漁は鳥取市青谷町夏泊で約400年前から行われていたが、高齢化と後継者不足によって10年ほど前に途絶えていた。その現状をテレビで知り、「自分が海女にならないか」と動いたのが、鳥取市で専業主婦をしていた今嶋裕子さんだ。名古屋出身の今嶋さんは、小学校から高校までシンクロクライズドスイミングに打ち込み、高校時代には日本選手権にも出場。「水の中に入っているのが好きだった」といい、その頃、三重県の「伊勢志摩の海女」の存在を知って、「水の中で仕事ができるなんてうらやましい」と感じていたという。

結婚後に夫の出身地である鳥取市へ移住、プログラマーとして働く。「海女漁の危機」の情報が飛び込んだのは、2人目の子どもの子育てに専念していた時期だった。「私でもなれるのかな」。軽い気持ちで問い合わせたところ、鳥取県漁業協同組合（以下、県漁協）で「海女になる道がある」と分かった。そして、家族の後押しもあって挑戦することに。しかし、既に青谷町での海女漁は行われていなかったため、2014年8月、新規就業者を支援する県の「漁業就業チャレンジ体験トライアル制度」を女性で初めて活用。同市気高町八束水沖で1カ月間、男性の潜水漁師から素潜り漁の研修を受けた。

正式に漁師の資格を取り、県漁協福部支所への配属が決まって、15年4月から岩戸漁港を拠点に漁をスタート。研修から操業までの間に小型船舶操縦士免許（以下、船舶免許）も取得、自身で船を操縦して漁に出る。現在、海女になって3年目。今嶋さんは「潜って捕って、それを売る。海女の仕事はシンプルで楽しい。子育てとの両立も可能で、自分のペースで仕事できています」とにっこり。「それに、今は2人だから心強い」と、もう一人の海女である真田美幸さんに目を向ける。



今嶋 裕子さん

## 「カッコイイ」と漁師に憧れ 二人三脚で出漁、加工品も



真田 美幸さん

め、慎重に海の状況を見て、必ず福部支所の事務所に声をかけて2人で出漁している。

港や支所で作業していると、先輩漁師や地域の人が話しかけてくれるといい、荷さばき場には、彼女たちのために手作りの温水シャワーも新設された。「とても気にかけてもらえてありがたい」と口をそろえる。

収入確保の為、収穫物のブランド化にも取り組む。親しみをもってもらえるように海女さんのキャラクターをつくり「あまべちゃん」と命名。ラベルに使用した生ワカメと、青谷の海女さんから教わった方法で加工した「絞りわかめ」、体によいと人気の「あかもく」などを、県内の道の駅などで販売している。

「岩戸の海は綺麗でやりがいがある。一次産業を盛り上げたい気持ちもある」と語る真田さん。素潜り漁だけでなく、地元の漁師が行っているバイ貝やコウイカを捕るかご漁も始めて、漁師としての幅を広げる。

「私がかご漁よりは潜っていたい」と今嶋さん。それぞれの思いを尊重して助け合いながら、鳥取の新たな「海女文化」を築いていく。

真田さんは鳥取市国府町出身。高校生の頃、テレビで漁船の漁師たちが大量に魚を捕る姿を見て「カッコイイ！」と憧れたが、基本的に漁師の世界は「女人禁制」と、夢は諦めていたという。

スポーツジムのインストラクターとして働いていたある日、テレビで今嶋さんが研修している様子が流れた。「そうか、これだ！」と、さっそく問い合わせ、県漁業から今嶋さんにつながり、一緒に福部支所で正組合員として漁をすることになった。

研修中は今嶋さんや地元漁師さんが指導役となっていたが、「今も2人で手探り状態です」と顔を見合わせて笑う。同じ漁場に潜って、どこに獲物があるか、どんなものが捕れるかなどを話し合えるのは「頼もしい」と今嶋さん。

真田さんも船舶免許を取り、自身の船を所有。交互に船を出す。海は常に危険と隣り合わせであるた

### 7キロの重りつけ、水深3~4メートルへ アワビ見つけたら宝物

漁期は4~11月。4~6月はワカメやアカモク、モズクなどの海藻類が捕れ、6~8月は岩ガキのシーズン。サザエやイガイも捕れるが、アワビは「年に5~6個しか見当たらない。見つけたら宝物を探し当てた気分」という。

漁に出る時は、ウエットスーツに7kgの重りをつけて、マスクとシュノーケルを装着。水深3~4mまで潜り、ワカメは草刈り用の鎌で刈り、岩ガキやアワビは「カキおこし」という道具を使う。収穫物は、浮き輪に取り付けた網に入れる。

「今年の夏は異様に海水温が高かった」と今嶋さん。海の中で環境の変化を肌で感じているという。全国から海女さんが集う「海女サミット」にも2人で参加して、他の地域の海女さんとも情報交換をしている。



漁が終わった後は、捕った貝などの処理作業。炎天下では暑さに参るという=写真提供：田淵厚志



乾燥させたワカメとアカモク。あまべちゃんマーク(右上)が目印だ



【問】  
公益財団法人  
ふるさと鳥取県定住機構  
所 鳥取市扇町115-1  
鳥取駅前第一生命ビル1階  
☎ 0857-24-4740  
WEB <https://furusato.tori-info.co.jp/>

▼IJUターン就職に関する相談  
☎ 0120-307-238  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)  
▼移住に関する相談  
☎ 0120-841-558  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)  
○とっとり移住定住ポータルサイト  
WEB <https://furusato.tori-info.co.jp/iju>

# 空き家活用を通じて 地域のにぎわい創出へ



各地で地域の人々を巻き込みながら開いたワークショップ。新潟県十日町市(写真上)と宮城県山元町(写真下)の様子。写真提供：パーリー建築

【PROFILE】  
宮原翔太郎さん  
◎家族構成／独身  
◎移住前の住まい／東京都三鷹市出身  
◎移住時期／2017年4月  
◎現在の仕事／パーリー建築代表、住宅のリフォーム・改修業  
  
山際一輝さん  
◎家族構成／独身  
◎移住前の住まい／愛知県名古屋市出身  
◎移住時期／2017年4月  
◎現在の仕事／住宅のリフォーム・改修業、パーリー建築農耕部、担当

「静かで小さな町だけど、空き家を有効活用し、地域活性化につなげるとい自分たちの手法を実証し、ゼロから暮らしを作る面白さがあります」と話す宮原さん。  
『喫茶ミラクル』の2階で共同生活を含みながら、これまで「R鳥取駅前」に開業した洋食店の改修工事



■喫茶ミラクル(パーリー建築)■  
所 鳥取市気高町浜村55-3  
☎ 080-4955-3530(宮原さん)

## ゼロから作る面白さあり

16年、鳥取市でパーリー建築の活動を紹介するイベントに招かれたのを機に、2人は初めて訪れた浜村温泉に根付くことを決める。これまで各地を移動してきたが、根底には「その土地のことをよく知る人が建築に携わるべき」という思いがあったからだ。

一方、パーリー建築「農耕部」を自認する山際さんは、建築工事のかわら、家庭菜園を担当。「あくまで自分たちとカフェで使う食材調達」が目的」としながらも、気高町内に3反(約990平方メートル)の農地を自分で購入した。「一反を使い、いろんな野菜を作っています。残りの農地で無農薬・無肥料農法のワークショップをしたい」と夢を語る。

大学卒業後、専門学校で建築を学んだ宮原翔太郎さんが、リノベーションの魅力に気付いたのは2014年。広島県尾道市で地元のみちづくり団体による、ゲストハウスの流れを生み出す場所になっている。大学卒業後、専門学校で建築を学んだ宮原翔太郎さんが、リノベーションの魅力に気付いたのは2014年。広島県尾道市で地元のみちづくり団体による、ゲストハウスの流れを生み出す場所になっている。

スづくりに参加したのがきっかけだ。同年9月に「パーリー建築」を立ち上げ、以来、建築道具と身の回り品を携え、施主の依頼に応じて、全国各地の現場を歩きながら、工事を手がけてきた。他のスタッフは流動的で、口コミで現場ごとに集まり、工事が完了すると散っていく。15年には、新潟県十日町市の築100年の古民家を、シェアハウスに再生。その工事から参加したのが、当時は広島県の予備校職員だった、パートナーの山際一輝さんである。

## 全国各地を渡り歩く

浜村温泉街の一角に、レトロモダンな雰囲気の『喫茶ミラクル』がある。元は理容室とスナックだった建物を、パーリー建築が改修し運営するカフェ空間だ。不定休でランチ営業を行うほか、地元の農産物を扱う朝市などのイベントを開催したり、期間限定でカフェをやりたい人に貸し出したりと、地元民をはじめ全国各地から口コミで多くの人が集まり、交流を生み出す場所になっている。



店外のデコレーションも温かみある手作り感満載



元理容室とスナックをリノベーションした『喫茶ミラクル』の店内。ゆったりとした空間に夜ごと人が集う

## ◎建築リノベーション(鳥取市気高町)◎

宮原 翔太郎さん  
東京都三鷹市出身

山際 一輝さん  
愛知県名古屋市出身

全国各地で古民家や空き家をリノベーション(\*)し、新たな地域資源を生み出す空間に変える活動がある。このうち旅する建築集団『パーリー建築』を立ち上げた宮原翔太郎さん(28)と山際一輝さん(30)は、2017年から浜村温泉(気高町)を活動拠点に、地域に新しい風を吹かせている。

※リノベーション…建物の機能・価値の再生を目的とした包括的な改修工事



写真／萱野雄一  
文／島香子

靴に特化したクラウド型保管サービスが全国的に注目されている株式会社Shpree。

預かった靴を適正な環境で靴職人が保管・メンテナンスするこのサービス。

申し込みから引き取りまで、スマートフォンでできる手軽さから都市部を中心に着実に利用者を伸ばしている。

## 職人+ネットで靴の新サービス展開



丁寧に思いを込めて靴を磨く。メンテナンス後は新品と見違えるほど

同社の朝は、保管庫にある膨大な靴を1足1足、靴職人が直接目で見て状態を確認することから始まる。「靴は生き物と同じ。実物を確認しなければ状態はわかりません」と社長岸田将志さんは話す。

「手のひらに靴箱を」をコンセプトに、スマートフォンから靴の保管やメンテナンスを請け負う「クラウド・シューズボックス」のサービスを立ち上げたのは2015年。祖母が創業した倉吉市内の靴屋で、「祖父の形見の思い出の靴を綺麗にしてほしい」という依頼を受けたことがきっかけだった。

「綺麗にしてお返ししたら、本当

に喜んでもらえて、その他にも「大切な靴にカビが生えた」、「靴の収納スペースが足りない」という声を多く聞いていたので、手軽に利用できるサービスがあればと、思いついた」と当時を振り返る。

2017年秋にウェブサイトで完成し、本格的にクラウド型保管サービスをスタート。利用方法はいたって簡単だ。ウェブサイトから申し込みをして（1足2980円〜）ダン

ボールなどに靴を入れ、指定した日時と場所で配送業者が引き取る。数の上限はなく、期間も無期限。靴のリストを1足ずつ写真つきで確認でき、希望日の引き取りのほか、メンテナンスサービス（オプション）も依頼できる。

その着眼点や発想が評価され、2018年4月には「鳥取県ビジネスプランコンテスト」で最優秀賞を受賞。テレビの全国放送でも紹介されたことで、ファッションに関心が高い都市部の女性を中心に利用者が広がり、ウェブサイトからは約1000人、店頭での申し込みを合わせる

と、さらに2倍になるという。

利用が増える一方で、靴職人の数は年々減っている。「その技術が失われてしまうのは本当に惜しい」と。職人さんと一緒にサービスを展開できれば」と、ウェブサイトで申し込める紳士靴の修理サービスも開始。デジタルと職人技が融合して誕生した新しいサービスの形に、今後が期待される。



多様な修理の要望に対応できるよう、棚にはさまざまな部品がズラリ



「職人さんの技術を大切に、使う人にはより便利に」と話す岸田さん

### 株式会社Shpree

代表/岸田 将志  
設立/2015年10月31日  
資本金/70万円  
〒倉吉市清谷町2丁目20  
☎0858-27-0390  
🌐https://shpree.jp

## 文字の迷宮をゆく

つれづれ書林女子



実在の山小屋主人や登山者が語った山での奇妙な体験談56編。山小屋に毎夜訪れる遭難者の霊、息子の遺体に導かれる母親など不可解で不気味だが、なぜか同時に、母胎に宿る前の「あの世」の記憶を呼び覚ますような、懐かしくおどろかな読後感があった。

古来、日本人にとって山は畏れと信仰の対象だった。美

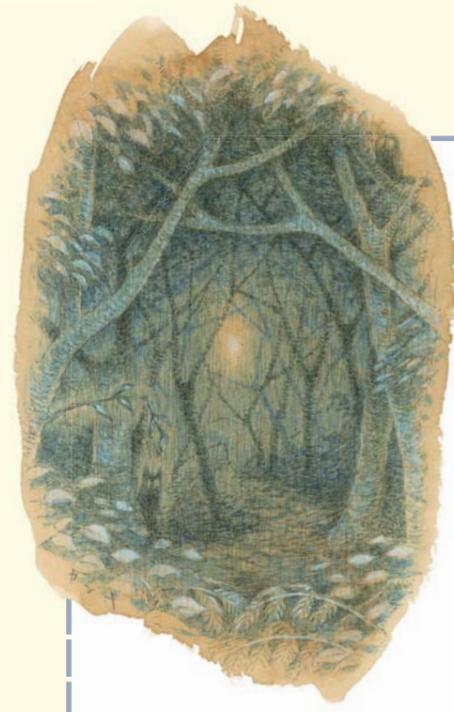
## いつか還る「この世」の向こう

【新編 山のミステリー 異界としての山】 工藤隆雄 著 (山と溪谷社)

しく近しく魅力的だが、明るい遊歩道から少し奥へ迷い込めば、そこは「この世」ではないのかもしれない。

幼い頃、怖がりのくせに怪談好きの私は、よくトイレに一人で行けなくなるとは祖母に手を焼かせた。その祖母も、この夏逝った。「あの世」というところが「いつか還る場所」なのだとしたら、人は、もう会えない誰かの面影を探しに、山という身近な異界へ登るのだろうか。無闇に怯えたあの頃と違い、いつの間にか私にも、あちらの世界に会いたい知り合いが増えてしまった。

文・イラスト/前田環奈



まえた・かなな  
鳥取市出身。邯鄲堂店主。\*自分が通いたい古本屋を鳥取に作るために2012年10月に古本屋「邯鄲堂」を開店。古本の販売のほか、陶磁器の修理(金継ぎ)も行っている。



【邯鄲堂】〒鳥取市吉方町2丁目311  
☎080-2940-2127

## voice

■ 119号の感想から ■

大阪から鳥取へ向かうバスの車中で「とっとりNOW」を、初めて拝読しました。写真が綺麗で、洗練された良い雑誌ですね。また、適度な余白もあって読みやすく、目に優しい色合いも、誌面を作る方々のセンスの良さだろうなと思いました。今回の巻頭特集の星取県、素敵ですね。天の川を見たことがないので見てみたい。観光列車「あめつち」も是非乗ってみたいです。

（大阪府大阪市 島田 かわり）

鳥取の大自然と言えば海や山で、訪れる度に景色を堪能していましたが、「星取県」の魅力には気づいていませんでした。星空観察をメインにした旅をしたいですね。

（埼玉県朝霞市 中村 智子）

特集の観光列車「あめつち」が良かったです。是非、乗車したい。景色も車中もグルメも最高に思える、素敵な写真でした。

（東伯郡湯梨浜町 箕浦 計江）

花咲く妖怪談で紹介されている「一反木綿」は、漫画ならではのユーモアがあり、痛快でした。羊羹があるとのこと。ぜひ食べてみたいですね。

（鳥取県鳥取市 川上 紀子）

「鳥取のうま味」のコーナーが楽しみで、帰省の際には掲載されている店に立ち寄っています。「とっとりNOW」で毎号、鳥取ゆかりの方々の活躍を知る度にドキドキ、ワクワク。誇らしさや感動など、いろんな感情が交錯し、そのたびに自身を振り返っています。

（東京都新宿区 谷岡 留美子）

今号の星空写真が美しく感激しました。私は船員時代に日本海を航海しており、海が穏やかな夏には時折、船上で夜空を見上げていたことを、懐かしく思い出しました。今年はずいぶん鳥取に行つて、この写真のような星空を見てみたいです。

（兵庫県西宮市 濱野 昭夫）

50年前に奈良県に住居を構えました。そこで星を眺めては、「故郷（鳥取市鹿野町）の空と同じや」と、首が痛くなるほど見つめ続けたものです。現在では、その時代の星空には到底及びません。故郷への思いは深くなるばかりです。

（奈良県橿原市 川島 清春）

初めて「とっとりNOW」を拝読しました。「生きものセンサー365」に登場したアケビ。子ども頃、田んぼでよく食べたものです。久しぶりにノスタルジックな気分になりました。

（鳥取県鳥取市 森木 志保）

# 読者プレゼント

応募〆切  
2018.  
12/31  
消印有効

## 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキまたは電子メールでご応募ください。  
① 希望の商品記号または商品名  
② 掲載記事への意見・感想  
③ 応募用クイズの答え  
④ 住所・氏名・年齢・電話番号  
※②の感想が次号の「VOICE」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

## 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220  
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)  
「とっとりNOW読者プレゼント」係  
メールアドレス: now@kouhouren.jp

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

## 応募用クイズ

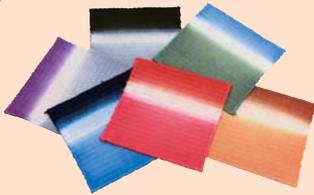
Q 左官が土蔵の壁に漆喰で彫刻や装飾を施したものを何と言う? 名称の2文字をご記入ください。

119号のクイズの答えは

「夏の大三角」

※「巻頭特集」の記事中に正解あり。

A



### 西尾絞りコースター(2枚セット) 【3名】

絞り染め作家、西尾正道さん(2頁参照)が確立した染色技法「西尾絞り」のコースター。濃淡の美しいグラデーションが、テーブルに彩りを添える。

問 西尾正道

☎ 0858-89-1837

※柄は選べません。

B



### シェブルチーズ「潮騒」(100g) 【1名】

淀江町で飼育されたヤギの乳を使い、10日以上熟成させたチーズ(6頁参照)。クリーミーでコク深い味わいながら、すっきりした酸味が後を引く旨さ。

問 メイちゃん農場

☎ 0859-56-3454

C



### 有機JASえごまの油(105g)

### エゴマミール(50g) 【3名】

エゴマの栽培から搾油まで一貫して作られた日野町産の油(8頁参照)。α-リノレン酸を豊富に含む。搾取後の種子を焙煎加工したミールとセットで。

問 THA 斎藤茂雄

☎ 0859-72-1238

D



### 2019年版鳥取県民手帳 【3名】

県の統計情報や郷土料理レシピ、災害時の心得などの豆知識を盛り込んだ手帳。過去3年分の天気も掲載され、旅行や行事などの計画の参考にも役立つ。

問 今井印刷株式会社

☎ 0859-28-5111

※色は選べません。

E



### 鳥取県卓上カレンダー2019 【5名】

四季折々の鳥取県の景色が、月替わりで楽しめる卓上カレンダー。1日ごとにメモスペースがあり、スケジュールが書き込みやすい。

問 公益社団法人 鳥取県観光連盟

☎ 0857-39-2111

F



### 鳥取ハーバリウム 【3名】

ボトルにブリザーブドフラワーと専用のオイルを入れたインテリア雑貨。モチーフは「いなばの縁結び」「しゃんしゃん傘」「らっきょうの花」(写真左から)。

問 CoCon

☎ 090-8716-0254

※種類は選べません。

G



### とうふちくわのバターケーキ 【3名】

県東部の特産品「とうふちくわ」を生地に練りこんだケーキ。さらにスポンジの表面には地酒も染み込ませてあり、地産産にこだわった逸品だ。

問 お菓子の工房カイザーケルン

☎ 0857-22-1630

H



### 「左官職人の技」職人組手ぬぐい 【3名】

漆喰の装飾を題材にしたデザインの手ぬぐい。躍動感のある昇り鯉や因幡の白兔が描かれている。綿100%。

問 株式会社セイセイ堂デザイン

☎ 0857-22-1122

※色は選べません。

## Editor's note

□ ■ 編集後記 □

「ヌートリアの受難」と題した生きものセンサー(14頁)。そんな過去の歴史があったとは、知らなかった。▼「生きるために生きる」動物たちと違い、欲望のままに不必要な行動を起こす人間。現在でも外来種を持ち込んで、生態系を壊す

行為は止まらない。▼被害を及ぼすと問題化されているシカやクマだって、従来は共生出来ていた。その環境を安易に変えてきたのは、人間だ。▼「生物多様性」が世界的にも評価されている日本。この豊かな自然環境を未来につなぐため、せっかく優秀な頭脳を持つ動物として、知恵を絞って共生の道を探りたい。▼さて、我が家

の^外来種、コザクラインコ。お気に召さぬことあれば、所構わずガンガン八つ当たり、キーキー叫びまくり…まるでレディース総長。並み。なのに、時にツンデレぶりを発揮、愛らしさを存分に見せつけ、家族はすっかり僕と化している。共生にあらず、コレでは逆転支配!?。別意味で、まさに人間の愚かさの象徴例だ。トホホ…。(汗) 【Hi】

とっとり  
Now  
2018 Winter  
鳥取県総合情報誌 vol.120

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会  
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

《制作》株式会社セイセイ堂デザイン  
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

とっとりNOW

検索

https://www.kouhouren.jp/  
2018年12月1日発行 定価309円